

県央史談会 平成28年 3月13日(日) 史跡めぐり

横浜貿易新報社

「県下名勝史跡45 佳選当選記念」の石碑を中心に

その1 《愛川町半原方面》

【担当】荻田 豊

【見学箇所と参考資料など】

1. 六地藏…天明8年(1788)建立。ほかに六地藏を一碑に並立して陽刻した方35cm程の石碑と損じた単像2体がある。

古老の話として、むかし沢が荒れて土砂が一带に押し出し、犠牲になった者を供養するために建てられたと伝わるが、上方にあった廃寺のものとの説もある。

2. 桜沢…愛川町と相模原市の境界
3. 県下名勝史跡45 佳選…昭和10年に横浜貿易新報社が創業45年記念に行った県下名勝地の人気投票(期間: 9月5日～10月5日)。投票用紙は1日2枚刷込む。〔参考資料〕『県央史談』第54号参照
4. 第21位「清正光大薩埵」の石碑…71,895票獲得

志田山朝日寺(旧串川村)…正安元年(1299)鎌倉に実成庵^{じつじょうあん}として中老日実が開基、昭和9年に鎌倉より移転し、旧号実成庵を志田山朝日寺と改める。昭和27年「清正光^{せいしょうこう}」という単独の宗教法人となる。

本尊「清正光大薩埵」…明治10年(1877)に志田山に勧請する。その神体は天の三光(太陽・月・星)で、清正光の名は、三光天子(日天子・月天子・明星天子)の教えを象徴して神格としたもので、「清」は清らかな汚れない光で、すべてのものを平等に照らしてくれる太陽の教えを、「正」は不正を破り正しい道を明らかにする明星の教えを、「光」は優しく愛する月の光の教えを顕わしています。

5. 諏訪神社…半原村上郷(川北)の鎮守として、村の氏神諏訪大明神を分祀したもの。〔参考資料〕『愛川町の小祠・小堂―半原地区(除細野)』 中段に「平和の碑」がある。
6. 愛川郷土資料館…山口学芸員説明 パンフレット参照

7. 第1位 「半原溪谷石小屋」の石碑…284,726 票獲得

半原の糸工場主が生糸相場を見るために横浜貿易新報を購読していたことや横浜生糸街の熱援でトップ当選ができたか？

8. 横須賀水道半原貯水地の取水口…対岸に見える。取水口・取水井、導水線路及び導水管、導水井と続き、水源地の量水井に至り、薬品混和池(昭和8～10年設置)、沈殿池、送水井、量水室と流れる

9. 愛川繊維会館…小島猛会員説明 パンフレット参照

彫刻家・中村博直…大正5年(1916)愛川町生まれ、昭和12年澤田政廣に師事、同21年第1回日展に「春庭」で初入選、同57年日展文部大臣賞受賞、同61年度日本芸術院賞受賞、平成3年9月没、享年74歳

10. 横須賀水道半原貯水地

①帝国海軍横須賀鎮守府が明治40年(1907)新軍港水道調査を開始

計画給水量は1万3千 m^3 明治45年(1912)2月に工事着手

大正7年(1918)10月一部通水開始 大正10年3月全工事完了

工費総額 384 万円

②原水(石小屋取水口)→沈殿池(半原貯水地)→逸見浄水場までは海軍が建設

③敷地面積1万4千坪。敷地内に、量水井、薬品混和池(コンクリート製のジグザグ)、沈殿池(長さ56、幅34.5、深さ4mのち2mかさ上げ／1万屯)4池、送水井、量水室(ベンチュリーメーター・イギリス製)、洋館風管理棟など

④水源地の標高130m、逸見浄水場60m、その落差70mで自然流下で送水。後に国道412半原バイパスの上方に揚水場を造る。その標高は185mだった。導水管は径500mmの铸铁管。その距離約53km、トンネルは12ヶ所、河川の横断に大小10余りの橋梁が架けられた

⑤終戦後、軍港水道の施設及び職員は横須賀市に引き継がれた

⑥横須賀水道100年史によると、平成13年に完成した宮ヶ瀬ダムにより、急激に水環境が変化(水質悪化)し、緩速濾過浄水処理方式に適さないため、平成18年4月に取水休止

〔参考資料〕『水の旅～横須賀水道100年史～』